

## かつやまじょうあと 15. 勝山城跡

所在地：勝山市元町2丁目

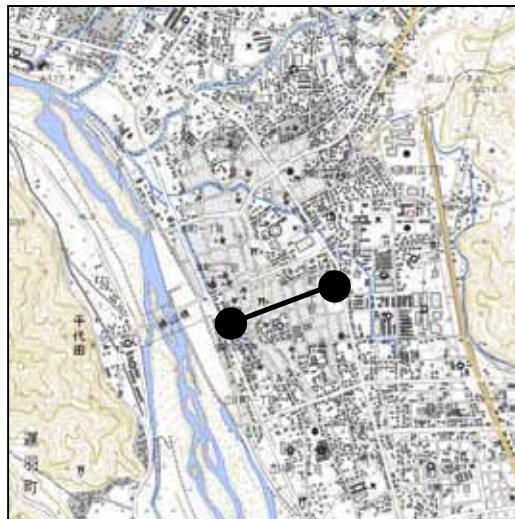
調査原因：電線地中化工事

調査期間：平成27年6月18日～10月1日

調査主体：勝山市教育委員会

調査面積：約700㎡

時代：古墳～奈良、室町、江戸



位置図(S=1/50,000)

**調査の概要** 勝山城は当初、村岡山城を本拠地としていた柴田勝安が、天正8年(1580)に袋田村(旧勝山町)へ新しい城を築いたことがはじまりといわれています。村岡山を「かちやま」と呼称していたこともあり、この城を「勝山城」と呼ぶようになりました。

地形をみると勝山城が築かれた地域は、勝山盆地の中央に位置しており、現在でも、隣接する県や市町を結ぶ主要な道路が通っているように、当時も交通の要衝であったと考えられます。西側には九頭竜川が流れており、水運にも適した地であります。



写真1 発掘調査作業写真(西から)

江戸時代に入ると、勝山城はいったん廃城となり、松平直基・直良の勝山藩の時代から、元禄4年(1691)に勝山へ入部した小笠原貞信の時代まで、城は存在しませんでした。

しかし、宝永5年(1708)、2代藩主信辰の時に、城の「再建」という形で江戸幕府より築城が許可されたことをきっかけに、勝山城が再び、表舞台にでてくることになります。その後、明治時代以降の市街地開発により勝山城は消滅し、現在は再建絵図でしかその姿を想像することができませんでした。今回の発掘調査では、平成14年(2002)の第1次調査で確認した馬出の一部の堀跡以来、勝山城の痕跡が地下に眠っていることを改めて確認することができました。

**遺構** 今回の3次調査は、幅1.2メートル長さ700メートルという細長い調査範囲でしたが、勝山城の東側にあった追手門の外側を守る馬出と三之丸の堀跡を発見しました。堀はもっとも残りが良かったところで、深さ0.9メートル、幅5メートルを測ります。実際はもう少し大きかったことでしょう。堀は、第1次調査で確認できた時と同様に素掘りと考えられます。



写真2 三ノ丸東側堀跡（東から）



写真3 溝全景（西から）



写真4 溝断面図（北から）



写真5 土師質の甕形土器出土状況（西から）

また、三之丸の推定地では再建絵図に描かれていない深さ1メートル、幅3.4メートルの溝も発見しました。底には、人工的に掘削したことを示す鋤跡が良好に残っていました。この溝からは土器などが見つからなかったため、明確な時期についてはわかりません。

しかし、周囲の状況から、小笠原氏が勝山に来るより以前の溝の可能性ががあります。小笠原氏より古い時期の勝山城の姿も、今後の発掘調査によりよみがえることが期待されます。

七里壁から九頭竜川方面に広がっていた城下町においても初めて発掘調査を行い、町屋の柱穴、石組井戸、溝などを発見しました。また、この地域では未発見だった奈良時代の土師質の甕形土器が出土した小穴もしくは柱穴も確認しました。このほか、九頭竜川の氾濫域の境になると考えられる落ち込みも見つかりました。

**遺物** コンテナ箱19箱を数える多くの土器などが見つかりました。内容は、土器や肥前陶器、越前焼、土人形、真鍮製の装飾品、石製品、古銭などです。これらの大半は、町人などが住んでいた城下町より見つかりました。この他に、古墳時代の甕や高坏、奈良時代の須恵器、室町時代の瀬戸美濃焼、中国製陶磁器なども見つかっています。

**まとめ** これまで勝山城の外郭に広がる城下町は遺跡として捉えられておらず、町の歴史を知るには古文書史料が中心でした。しかし、今回の調査によって、城下町の町人たちがどんな暮らしをしていたのか、古文書ではわからない具体像をとらえることができました。

（藤本康司）